

MADONNA

St.Mary's College Campus Letter

聖マリア学院大学キャンパスレター [マドンナ]
Vol.14



CONTENTS

目次

- 巻頭言
- 2 「これまで以上に信頼される大学を目指して」
 - 3 特集「専攻科 助産学専攻 演習・実習風景レポート」
 - 5 シリーズ⑭「大学に求められるもの」
 - 6 CAMPUS TOPICS
「釜山カトリック大学校(CUP)看護大学生 日本実習」
「平成27年度 アメリカ研修旅行のご案内」
 - 7 CAMPUS TOPICS
「夏期教職員研修報告」
 - 8 CAMPUS TOPICS
「東日本大震災被災地ボランティア活動報告」
 - 9 領域紹介「共通・統合領域」
「平成27年度 国家試験フェア」ご報告
 - 10 平成26年度決算・財務状況の公開



聖マリア学院大学の教育理念

聖マリア学院大学は、「カトリックの愛の精神」に基づく教育・研究を行って、豊かな人間性と深い教養を具え、高度の看護知識と技術に基づく科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材を育成することを目的としています。

聖マリア学院大学の教育の特色

- 「人間の尊厳生命を尊重する倫理、生命倫理教育」による倫理的判断能力／専門職としてのケアリング／ヒューマンケアの実践能力の育成
- シスターカリストロイ博士提唱の「ロイ適応看護モデル」に基づく科学的思考と問題解決能力の育成
- 聖マリア病院とともに長年の国際保健医療協力を連携して実践している「国際看護学」の教育

「これまで以上に信頼される大学を目指して」

皆様、こんにちは。平成27年4月より、矢野正子・前学長に替わり聖マリア学院大学・第三代学長に就任致しました井手三郎でございます。どうぞ宜しくお願い致します。

聖マリア学院大学は、設置母体となる聖マリア病院開設時から、カトリックの愛の精神の下に、科学的診療と共に教育を行うことを明言した60余年の歴史を背負っています。同院では、救急医療、公衆衛生活動、新生児小児・周産期医療、脳神経等高度医療、国際医療協力、ホスピス、在宅医療等を他に先駆けて展開してきました。またこれらの基盤となる生命倫理教育も30年程の歴史を有しています。

これらの結実として、聖マリア学院大学の教育が行われています。人間の尊厳というフィロソフィーを根幹に、エビデンスに基づき、看護領域等の高度な保健医療の展開に資する人材の養成が出来るよう、最高の教育・研究の環境を提供出来るよう日々努力を重ねております。

私は学長就任に際して、次の所信を表明致します。

「カトリックの愛の精神」を基盤とした大学教育を实践致します。カトリック大学として、世界標準の教育理念に基づき、特に保健医療福祉分野におけるグローバル展開を目指します。

在學生にとっても卒業生にとっても、また地域の人々にとっても、より信頼を持たれる大学となることを目指して行きたいと思っております。

今後とも皆様の温かいご支援とご協力をお願いし、新任のご挨拶と致します。



学長 井手 三郎

profile

筑波大学大学院修士課程医科学研究科医科学専攻修了。博士(医学)九州大学。聖マリア学院短期大学・教授。学校法人聖マリア学院・事務局長。学校法人聖マリア学院・理事長(平成16年8月～)、聖マリア学院大学・教授(平成18年4月～)、聖マリア学院大学大学院・教授(平成22年4月～)。平成27年4月1日より現職に就任。

専攻科助産学専攻 演習・実習風景レポート

女性の一生にわたる健康支援、母子を含む家族の看護から地域における助産活動まで、幅広い科目を二年で学ぶ。

専攻科助産学専攻 講師 田中千絵 助教 柳本朋子

少子化や高齢化社会と声高に呼ばれる中、今助産師の役割が見直される注目が集まっています。産科医・助産師不足の問題は深刻で、助産師養成は国の重要施策のひとつです。

聖マリア学院大学専攻科助産学専攻では、妊娠や、出産、育児支援、女性の一生にわたる全ての時期における健康支援、さらに母子を含む家族を対象とした家族看護、地域での助産師

の活動や助産管理など専門職としての幅広い科目を一年課程において学んでいます。

助産学専攻では、入学時から6月中旬の助産学実習開始に向けて、学内でしっかりと助産の基礎を学んでから臨地実習に臨んでいます。そのために座学と並行して、学内施設である助産学実習室で「分娩介助」の演習を繰り返し行い、実技試験を受けて合格した後に実習の開始となります。

この演習を看護学部の学生が見学する機会も設けています。学部生にとっては専攻科の助産学生が真剣な表情で演習しているのを見学して、先輩たちの技術演習の難しさと、しかし、いきいきと取り組んでいる姿を目の当たりにして、その凄さを実感すると同時に助産師という進路も視野にいれるようになります。

専攻科助産学専攻の臨地実習では、まず最初に総合周産期センターを持つ聖マリア病院産科で実習を行った後、外部の助産実習施設で実習を行います。他大学から進学してきた専攻科の学生は、聖マリア病院周産期センターの規模の大きさと、素晴らしい設備の

整った施設で実習を行うことに驚きます。

学内での演習と違い、実際の現場で行う実習は、将来、助産師として働く上で貴重な場となります。また、実習病院の助産師から指導を受け、実際に働き始めたときのギャップがないようにはしていくことも実習の意義として重要です。現場での実習には戸惑うことや苦労もありますが、実習先の指導教員の先生や周りの仲間と絡み合いながら乗り越えていきます。

また、助産学専攻の実習では、妊婦さんを二名受け持ち、継続事例として妊娠期からの健診や保健指導をしながら分娩・育児支援までの周産期を支援しています。受け持ちの妊婦さんが、夜中に陣痛開始となったとき、学生は何時でも産科病棟に駆けつけ、寄り添い、励まし、お産につかせていただきます。

二日間・三日間にわたることもあり、学生も体力勝負となります。そのような中で学生との信頼関係ができ、退院時にはお手紙でお礼を下さることもあり、助産学生への励みにもなっています。



1. 分娩介助演習風景。学内施設の助産学実習室で繰り返し行います。
2. 助産学生が真剣に取り組んでいる技術演習を、学部学生が見学する様子。
3. 学生間で学んだ後、演習を行っています。
4. 毎日、分娩室のチェックをします。
5. 専攻科3期生と柳本教員(上段左端)。
6. 学内で助産の基礎をしっかりと学んだ後、聖マリア病院で実習指導を受けます。

助産学専攻の学生は、臨床での分娩介助実習の前に学内で分娩介助の練習を何度も繰り返して行った後に実習に出ていきます。初めて分娩介助につかせていただく時は緊張の連続ですが、分娩が終了して、自分が生命誕生に関わることのできた感動と、産婦さんから「ずっとそばについていてくれてありがとう」と感謝の言葉をいただき、一生忘れられない体験をして、助産師としての第一歩を踏み出します。学生は10例の介助を通して産婦さんと家族から沢山のことを学び、実習で様々な体験を通して一年間で大きく成長していきます。私達教員はそんな学生の成長を楽しみに、日々の教育に励んでいます。

(柳本朋子)

平成28年度 大学専攻科 助産学専攻 受験案内

1. 修業年限・入学定員他

助産学専攻	修業年限	入学定員	入試区分
	1年	15名 (女子のみ)	推薦入試:10名 ※内部推薦を含む 一般入試(前期):5名 一般入試(後期):若干名

卒業後の資格	
助産師国家試験受験資格 受胎調節実地指導員資格	

2. 出願期間・試験期日他

推薦入試			
出願期間	試験期日	合格発表日	入学手続締切日
平成27年9月11日(火)～9月16日(水)	平成27年9月26日(土)	平成27年10月8日(木)	平成27年10月21日(水)

一般入試(前期)			
出願期間	試験期日	合格発表日	入学手続締切日
平成27年10月8日(木)～10月22日(木)	平成27年10月31日(土)	平成27年11月11日(水)	平成27年11月25日(水)

一般入試(後期)			
出願期間	試験期日	合格発表日	入学手続締切日
平成28年2月1日(月)～2月18日(木)	平成28年2月27日(土)	平成28年3月4日(金)	平成28年3月17日(木)

平成28年度 大学院 看護学研究科 受験案内

1. 修業年限・入学定員他

看護学研究科(修士課程)	修業年限	入学定員	入試区分
	2年※	12名 (男・女)	一般入学試験 社会人特別選抜試験

※4年を上限に長期履修制度あり。

2. 募集研究領域

- 健康・療養支援看護学領域
 1. 修士論文コース
 - ・ヘルスプロモーション看護学分野
 - ・小児・子育て支援看護学分野
 - ・クリティカルケア看護学分野
 - ・療養支援慢性看護学分野
 - ・老年看護学分野
 - ・精神看護学分野
 2. 慢性看護専門看護師コース(CNS)
- MCH(周産期・母子)看護学領域
 1. 修士論文コース
 2. 母性看護専門看護師コース(CNS)
- 統合看護学領域
 1. 修士論文コース
 - ・看護政策・管理・教育システム(国際比較)分野
 - ・国際看護学分野

3. 出願資格認定審査申請期間

入試区分	出願期間
秋期(一般、社会人)	平成27年9月8日(火)～9月24日(木)
春期(一般、社会人)	平成28年1月5日(火)～1月19日(火)

※出願資格によっては、事前に出願資格認定審査の受審が必要な場合があります。(詳細は募集要項をご参照ください)。

4. 出願期間・試験期日他

秋期(一般、社会人)			
出願期間	試験期日	合格発表日	入学手続締切日
平成27年10月8日(木)～10月22日(木)	平成27年10月31日(土)	平成27年11月11日(水)	平成27年11月25日(水)

春期(一般、社会人)			
出願期間	試験期日	合格発表日	入学手続締切日
平成28年2月1日(月)～2月18日(木)	平成28年2月27日(土)	平成28年3月4日(金)	平成28年3月17日(木)

自律性と創造力豊かな学生を育成する

看護学部教授・大学院看護学研究科教授 小路 ますみ

現在、地域社会は超高齢化・少子化に直面し、社会保障の構造改革が急ピッチで進んでいる。地域で健康施策に携わる保健師の活動も、住民代表を含む保健医療福祉他の関係機関・団体、職種との協働による包括的なケアシステム構築が重要課題として浮上している。保健師養成も時代に即応し、2009(平成21)年7月9日、保助看法の一部改正によって、教育期間が6ヶ月から1年以上の延長となった。この背景には、保健師に求められる役割と機能が高度化し、現状での保健師養成課程では、その任を果たせなくなったことにある。この役割と機能とは、既存の社会資源や施策が地域の人々の健康水準を向上させるために有効なものであるかどうかをアセスメントしつつ、新たな社会資源の開発や、システム化、施策化を進める役割を担うことである。システム化とは、保健師の固有の業務―家庭訪問・健康相談・健康教育など―で捉えた地域住民の潜在

的↓顕在的ニーズ(健康問題)を、関係機関・団体、職種と連携することで協働解決できる体制づくり、すなわち創造事業のことである。

この協働解決には、他領域の専門職との対等関係が必要であり、保健師には健康施策の専門家としての自律性が求められる。この自律性の確保には、的確に健康問題を捉え、保健医療福祉分野の研究成果を活かしながら、あるいは研究に取り組み、専門家として問題を解決・改善できる能力の育成が必要である。

本学の学部教育では、保健師養成は選択制を導入し、学生の自律性、協調性の育成を図りながら地域保健活動の展開を教授している。研究科では、協働解決の要素である人間・相互行為・現象を捉える能力の醸成を図りながら、システム化に係る実践・研究能力の育成に努めている。

釜山カトリック大学校(CUP) 看護大学生の日本実習が行われました。

国際交流委員会

平成27年8月3日(月)～7日(金)まで、釜山カトリック大学校看護大学4年生10名(男子4名、女子6名)と引率教員2名が、実習のために来日されました。CUP学生はまず、本学の矢野教授による講義「日本の医療と看護について」を通じて、病院見学の前提知識を学び、聖マリア病院での見学実



聖マリアヘルスケアセンターも見学されました。

習を行いました。評価会では、日本と韓国の違いを単に指摘するだけでなく、まらず、お互いの状況を良く知るようになれば、共通の課題点については協力し合って解決することができるとはな



本学の学生が企画した歓迎交流会での記念撮影。

いかという提言もありました。

また、本学の学生(国際交流担当)が中心となり、歓迎交流会を開催しました。日本らしさを感じてもらいたいとのことで、選んだメニューはお寿司。そして英語、韓国語、日本語そしてボディランゲージを駆使して、コミュニケーションをとろうとする光景が随所で見られました。

このようにして韓国の学生から実際に話を聞くことにより、視野が広がると語る参加者もいました。学内にいながら国際交流ができる機会を活かし、自分の成長へとつなげてもらえたら嬉しく思います。

Information

平成27年度 アメリカ研修旅行のご案内

【訪問先】

- ◆ロサンゼルス
 - ・Mount St. Mary's University (シャロンキャンパス、ドヒニキャンパス)
 - ・Children's Hospital of Orange County (オレンジ郡子ども病院)
 - ・St. Joseph Hospital (セントジョセフ病院)
- ◆ホノルル
 - ・St. Francis Hospice (セントフランシスホスピス)

【旅行費用】

約25万円程度(平成26年度実績)
※詳細については、決定次第、学内掲示板等にてお知らせいたします。

平成27年度アメリカ研修旅行は、平成28年の3月中旬頃実施予定です。期間は6泊8日、訪問先は、ロサンゼルスとホノルルの2都市。本学の姉妹校、姉妹施設を訪問します。



※写真は平成26年3月の様子。



小路 ますみ

profile

看護師・保健師
社会学学士、看護学修士、教育学博士満期退学
臨床看護師3年を経て福岡県に入職する。保健所保健師を経て福岡県立看護専門学校(現福岡県立大学看護学部)において保健師養成の後、県庁で健康政策に携わる。さらに、保健所保健師として、連携事業・システム創設に携わる。代表的なものに徘徊高齢者SOSシステムがある。その後、福岡県立大学看護学部設立準備室で大学設立に携わったのち当大学の教員として勤め、大学院完成年度を経て、聖マリア学院大学に入職。看護師ならびに保健師養成7年目に入る。

夏期教職員研修報告

カトリックセンター

春と夏の年に2回、全教職員を対象とし、本学院の理念である「カトリックの愛の精神」について、理解を新たにし、具現化の道を探ることを目的として、カトリックセンターでは「研修会」を開催しております。

(使徒言行録20章35節)をテーマに、Eフロムの「愛するということ」から「愛」について様々な視点から考察する機会をいただきました。また、神父様のご経験に基づく講話に共感する教職員も多く、一人ひとりにとって「愛」とは他人ごとではない、自分につながっているものであると、実感ができる研修会となりました。 「愛すること」は、技術(art)である」というお話に、看護との共通点に気づく機会となったとの声もありました。



今年度の「夏の研修会」は、8月5日、久留米カトリック教会主任司祭の森山信三神父様を講師にお迎えし、「受けるより与える方が幸いである」



研修会は、雪の聖母の祝日を祝うミサで締めくくられました。ミサでは、学院教職員に加えて、聖マリアグループ職員、近隣の住民の方も一緒に、神の豊かな恵みと計らいに感謝するとともに、助けを必要としている人々の真の隣人となり、愛の実践に励むことができるよう、聖母の取り次ぎを願い、祈るひとときを過ごすことができました。



今後、定期的な研修会を通じて、本学院の基本姿勢への共通理解を形成することをめざし、将来を共に展望する機会が与えられることを希望しています。

東日本大震災被災地ボランティア活動報告

カトリックセンター

東日本大震災復興支援の一環として、夏(9月)と春(3月)に学生を中心としたボランティアグループを東北へ派遣しています。

夜行バス、市民バス等乗り継ぎながらほぼ1日をかけて移動します。地理的な距離の隔たりを感じながら、東北に到着する学生たちですが、様々なボランティア活動に参加する中で、現地の方々との出会いによって、心豊かな距離をぐんと縮めて福岡に戻ってきています。

今年度は、9月に3グループ計11名の学生が岩手県・カリタス釜石(3名)、宮城県・カリタス米川ベース(8名)で、それぞれ6日間ボランティア活動に参加しました。

リピーターの学生は、久しぶりのペースで旧知のボランティア仲間や地元の方々と再会を喜び合い、初めて訪れる学生は新たな出会いの体験によって、人と人とのつながりの温かさを体験しています。互いに支え合う経験は、消えることのない灯であり、宝のようなものです。

ボランティア活動を終えた後、全員による「ふりかえりの会」を開き、自分の体験や思いを見つめ直し、新たな一歩への力をいただいたことに感謝します。そして、現地に行ったからこそその思いを伝えるために、11月の「マリア祭」で報告会を開催します。

最初の派遣は、震災発生から半年が経った2011年9月でした。以来、今年9月までの派遣者数はのべ90名(学生80名、教職員10名)となりました。「震災のことを忘れないでほしい、自分たちのことを忘れないでほしい。」ボランティアさんの姿は忘れられないことしるし。「被災された方の言葉です。訪れる学生・教職員は変わっても、「忘れないでほしい」という思いをしっかりと受け止め、行動で表し、伝えていきます。



活動中はカリタスのロゴ入りビブスを着用(米川ベース)



水産加工工場でのお手伝い(大槌町)



結び昆布の加工は人の手で行われる(南三陸町)

領域紹介 「共通・統合領域」

看護学部 大学院看護学研究科 教授 日高 艶子

共通・統合領域は、看護学の各領域に共通する内容と本学の特徴及び学習の総括科目を学ぶ領域です。本領域では、まず2年次にリハビリテーション看護学を学びます。次いで3年次には、看護管理、看護研究Ⅰ・Ⅱ、看護安全管理論、ターミナルケア論、4年次に看護教育論、ケアリングサイエンス、災害看護論、総合看護学実習、看護研究Ⅱと学年の進行と共に段階的に看護学の学習の統合を追求していきます。

また、本領域は、学生が卒業後も自己という境界を越え(越境)異なる価値観や他者の生き方に対する理解を深めることができるよう、生涯に渡り学び続け(生涯学習者)自己を形成し人として成熟していくための基盤づくりの領域ともいえます。



平成27年度 国家試験フェアが開催されました。



(上)前半は、試験問題の出題傾向など、試験対策についての説明会が行われました。(下)後半はチューターとの懇親会を開催。学生や保護者と今後の指導について話し合われました。

聖マリア学院大学では国家試験対策の環として、新4年生と保護者を対象に国家試験フェアを毎年開催しております。

来年2月の看護師・保健師・助産師国家試験を受験するにあたり、先輩達の情報分析を基に、その傾向と対策を本学の国家試験対策委員会が企

画・運営するものです。

前半の説明会では、先輩達の様々なデータや国家試験問題の出題傾向等を基に、国家試験対策の基本を伝授し、後半のチューターとの懇親会では、今後の指導がスムーズに行えるよう、チューターと学生や保護者の交流を深めました。

財務状況等の公開

(平成26年度決算の概要)



法令に基づき、大学等の設置者である学校法人は、当該事業年度における決算関係書類及び事業報告書を作成し、これを広く公開することが求められています。本学においては、理事会・評議員会での承認を経て、財務状況並びに事業報告に関する情報公開を、順次、ホームページに掲載することとしております。本誌では、誌面の都合上、財務状況の概要を掲出します。

学校法人会計について

学校法人は、公益性をもった教育研究の実践主体として、学校の経営を行うことを、その目的としておりますので、一般企業のように営利を活動目的とする法人ではありません。よって、人材育成を含めた教育研究活動の成果を、社会に還元させる義務を負っています。

学校の経営に伴う経理処理については、学校法人会計基準(文部科学省令)により定められており、主要な財務計算書類として「資金収支計算書」「消費収支計算書」及び「貸借対照表」の作成が義務付けられています。

■資金収支計算書

毎会計年度(4月1日～翌年3月31日)の諸活動に対する全ての収入及び支出の内容を明らかにし、当該年度における支払資金(現金及び預貯金)の順末を表すものです。<企業会計の「キャッシュ・フロー計算書」に類似したものです。>

■消費収支計算書

当該会計年度の消費収入及び支出の内容と均衡状態を明らかにし、固定資産の経過的価値の減少(減価償却)や、将来的な負債を考慮した計算書で、学校法人の財政的な経営状況を表すものです。<企業会計の「損益計算書(P/L)」に相当するものです。>

■貸借対照表

期末(会計年度末)における総資産及び総資金(負債、基本金、収支差額)の価額とその内訳を明らかにし、財政状態の健全性を表すものです。<企業会計の「貸借対照表(B/S)」に相当するものです。>

「資金収支計算書」の概要

資金収支計算書 平成27年3月31日現在 (単位:千円)			
資金収入の部		資金支出の部	
科目	26年度決算額	科目	26年度決算額
学生納付金収入	802,108	人件費支出	569,707
手数料収入	13,012	教育研究経費支出	175,347
寄付金収入	30,927	管理経費支出	73,219
補助金収入	124,190	施設関係支出	8,667
資産運用収入	5,189	設備関係支出	9,270
事業収入	17,961	資産運用支出	29,490
雑収入	36,046	その他の支出	28,307
前受金収入	140,528	予備費	-
その他の収入	137,699	資金支出調整勘定	31,904
資金収入調整勘定	△178,003	次年度繰越支払資金	1,590,019
前年度繰越支払資金	1,322,466		
収入合計	2,452,124	支出合計	2,452,124



「貸借対照表」の概要

貸借対照表 平成27年3月31日現在 (単位:千円)			
科目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	4,652,888	4,729,298	△76,409
その他の固定資産	1,035,331	1,014,441	20,890
流動資産	1,613,062	1,438,950	174,112
資産の部合計	6,265,951	6,168,249	97,702
負債の部			
固定負債	170,484	179,970	△4,486
流動負債	185,047	183,267	1,779
負債の部合計	355,531	358,238	△2,706
基本金の部			
第1号基本金	5,601,102	5,577,528	23,573
第2号基本金	730,000	705,310	24,690
第4号基本金	63,000	63,000	0
基本金の部合計	6,394,102	6,345,838	48,263
消費収支差額の部			
翌年度繰越消費支出超過額	△483,682	△535,827	52,145
消費収支差額の部合計	△483,682	△535,827	52,145
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	6,265,951	6,168,249	97,702

「消費収支計算書」の概要

消費収支計算書 平成27年3月31日現在 (単位:千円)			
消費収入の部		消費支出の部	
科目	26年度決算額	科目	26年度決算額
学生納付金	802,108	人件費	565,221
手数料	13,012	教育研究経費	276,981
寄付金	32,887	管理経費	92,578
補助金	124,190	資産処分差額	169,973
資産運用収入	5,189	予備費	-
事業収入	17,961		
雑収入	40,011	消費合計	934,951
帰属収入合計	1,035,360	当年度消費収入超過額	52,145
基本金組入額合計	△48,263	前年度繰越消費支出超過額	△535,827
収入合計	987,096	翌年度繰越消費支出超過額	△483,682



「聖マリア奨学金」制度について(ご案内)

聖マリア学院大学の主たる実習施設であり、運営母体である“聖マリア病院”との更なる協働的・継続的な看護教育に資するため、平成28年4月より、「聖マリア奨学金」制度を運用することとなりましたので、ご案内いたします。

金額	年間の授業料相当額を上限
返還義務	卒業時に一括返還。但し、卒業後、聖マリア病院もしくは同病院グループ各機関・施設に就職した場合は、所定の条件下で月賦返還。
貸与期間	修業年限を上限
採用人数	若干名
貸与条件	平成28年4月以降入学者(看護学部、助産学専攻、大学院) 家計状況が一定の審査基準を満たしている。 原則、他の奨学金との併用はできない。 ※半年毎に継続の有無を確認し、審査を経て採否を決定。

※入学後に応募説明会を開催します。

平成27年度「同窓会」総会開催報告

先輩から後輩へ 受け継がれる“マリア精神”

本学は、昭和48年の聖マリア高等看護学院開設より現在に至るまで、連綿と受け継がれるカトリック教育理念の下、幾多の卒業生を社会に輩出し、その多くは福岡県下を中心とした保健・医療・福祉の分野における中核的人材として活躍しています。卒業生のネットワークは、本学の歩みとともに拡大し、「同窓会」組織として、後輩となる在学学生を支え、本学の発展に寄与いただいているところです。ここに衷心より、改めて感謝申し上げます。

同窓会の総会は年次定例会として開催されており、本年度も7月12日(日)、久留米市内のホテルにおいて開催されました。卒業後、何年～何十年(!?)経てなお、学生時代の話題で、終始和やかな雰囲気の中、盛会のうちにお開きとなりました。同窓生の皆様におかれましては、引き続き後輩諸氏への叱咤激励と、変わらぬ温かいご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げる次第です。



同窓会の諸活動に関しては、本学への様々なご支援を含め、卒業生の皆様の終身会費により運営されております。在学学生の皆さんは、卒業の後、これまで支えられてきた側から、後輩を支える側となります。卒業時に際しては、同窓会事務局より会員手続きのご案内がありますので、その折はご理解とご協力をお願いいたします。

平成27年度入学式を 4月6日(月)に挙行いたしました。

当日は、久留米カトリック教会の森山信三神父様の司式によりみことばの祭儀が執り行われ、新入生の上に神の豊かな祝福を祈りました。新入生として看護学部看護学科115名、専攻科助産学専攻7名、大学院看護学研究科10名の合計132名が、井手三郎学長より入学の許可をいただきました。

ご家族、来賓の方も多数ご参列いただき、大学の門をくぐり、看護職としての志を新たにする新入生を祝いました。本学においては、平成18年の大学開設(既設短期大学からの改組)の後、平成22年の大学院設置、平成24年の専攻科助産学専攻の設置を経て、看護教育・実習に関するカリキュラムの更なる充実を図っているところです。また、大学院においてはCNS(専門看護師)コースが開講し、より高度の教育研究の実践を目指しながら、常に建学の精神である“カトリックの愛の精神”に立ち戻り、学生を第一(ファースト・プライオリティ)とした、特色ある教育研究に努めていきます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます!
ようこそ聖マリア学院大学へ!



編集後記

大学では3月に卒業生を送り出し、4月に新入生を迎え入れる。毎年の繰り返しであるが、そこに変化が見られなければ、全体が停滞し、大学も淘汰される時代となっている。さて、本学では、4月より第三代学長として井手三郎学長が就任した。新体制の下、新たな“うねり”を若い学生達と共に作り出したい。(MT)